

高校 国語の学習

3 総合国語

テスト問題用紙

.....

- ・先生から試験開始の合図があるまで、ページをひらかないこと。
- ・問題は、随筆1問／評論1問／古文1問／国語基礎力4問の計7問ある。
 - P 2～P 3…随筆
 - P 4～P 5…評論
 - P 6～P 7…古文
 - P 8…国語基礎力
- ・◎印の問いは、本書では問われなかったものである。
- ・解答はすべて、別紙の解答用紙に記入すること。



1

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

——小学校時代の下校時は、楽しいものだった。……

友だちとふざけたりして遊び遊びしながら帰るのも、一人で（A）よそ見をしながら帰るのも楽しかった。一人のときは、学校からひとつの石ころをずっと家まで蹴りながら帰ったりすることもあった。

学校から家まで子供の足で、三十分ほどかかる。その二キロほどの道のりを、石ころひとつとつき合って帰るのだが、これが（B）時間がかかる。思わない方向に飛んでいったり、溝にはまったりすると、ジグザグに歩いたり、まわり道をしたりすることになる。そしてそういう、^①めんどくさいことがつまりは楽しいのであった。めんどくさいことには、よそ見というオマケがついていて、石ころが落ちた溝の^{*}コウホネや水藻のあいだには、ヤゴやミズカマキリが居る。それを草の先つちよでつついたり、水の中をのぞきこんだりする。タニシをひっくり返したりころがしたりして遊んでいるうちに、石ころのことなど忘れてしまう。

そういうよそ見という道草をしていた時間は、今から思えばずいぶん長い時間であったように思うし、子供の感覚からいっても（C）とても長かったような気がする。実際の時間はほんとうは、十分くらいのものであったのだらう。

時間とか「I」といえば、私が初めて既視感^②というものを経験したのも、道草の途中であった。菜の花の咲くころの午さがり、白く乾いた農道にぼんやり立っていた時、ふと何ともいえないなつかしいような妙な気分と感じがし、しばらくあたりの景色を見まわしていたことがある。

いつともしれないいつか、けれど、確かに今という時間のようないつか、こんなにはんやりとした白い農道のこの曲がり角に私は立っていた。そして、今日に見えているように菜の花の畑にかまれ、雲は鈍く光り、空気が希薄でなま暖かった。同じようなことがいつか確かにあった。^③けれどそれがいつだったのか、どうしても思い出すことができない。

その後私は幾度となく既視感を感じることがあったが、小学校一年生のときのあの春の午さがりの道草のときのことが、一番鮮明である。道草をしているとき、一心に何かに集中しているが、^④ここはどこかほどけている。そういうこころの状態が、ふだんとはちがう感覚を呼びこむのかもしれない。

おとなになるに従って、人はころがほどけたような道草をしなくなってゆくのもかもしれない。道草のあの長く無為な、しかしふしぎに楽しい時間。それはおそらく、道草というものが用意されたものではなく、ふとした偶然のものであり、意味づけの要がない

ものなのだからであろう。子供は、道草の意味など思いもしないで、道草だけをする。道草をしていることも忘れて道草し、そして（D）そのことを忘れてしまうだろう。

（河野裕子『どこでもないところで』）

*コウホネ：スイレン科の水草。

◎問1 （ ） A～Dに入ることをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。（同じことは二度使わない。）

ア やはり イ すぐに ウ ゆっくり エ けっこう

問2 — 線部①が具体的に書かれている部分を文中から二〇字で抜き出し、最初の五字を答えよ。

◎問3 「」 I に入ることを、文中から漢字二字で抜き出して答えよ。

◎問4 — 線部②を説明する、連続する二文を文中から抜き出し、最初の五字を答えよ。

◎問5 — 線部③について、筆者が小学校一年生のときに味わった「感じ」を文中から二三字で抜き出し、最初の五字を答えよ。

◎問6 — 線部④について、季節が「春」だとはっきりわかることを文中から五字以内で抜き出して答えよ。

◎問7 — 線部⑤に最も近いものを次から選び、記号で答えよ。

ア 迷いが晴れている イ 緊張している ウ 思い出にひたっている
エ リラックスしている オ 何かに陶醉している

問8 右の文章の題名として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 子供 イ よそ見 ウ 道草 エ 既視感 オ おとな

2

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

I 「今」は瞬間ではない。^①時間直線上の一点ではなく、状況に応じて、ある場合には短く、ある場合に長い持続が、「今」として意識される。「ながらへば又此のごろやしのばれんうしとみしよぞ今は恋しき」の「今」は「此のごろ」と等価であり、(A) 数年を意味するだろう。「松(待つ)^{②*}」ときかば今かへりこむ」の「今」(今すぐ)は、それよりも短い。^③どれほどの長さの持続を「今」とするか、一般的な定義を考えることはできない。「今」はゴムのひものように伸縮する。(中略)「今」が収縮すれば、「今かへりこむ」となり、「いまはかうとおもはれければ」(『平家物語』「能登殿最期」^④)となり、遂には俳句の一瞬となる。

II 始めなく終わらない歴史的時間は、方向性をもつ直線である。この直線上の事件には先後関係があるが、直線全体の分節化はできない。^⑤円周上を循環する自然的時間の場合には、事件の先後関係ばかりでなく、分節をあきらかにすることができ。冬来たりなば春遠からじ。日本列島の本島西部と九州——(B) 古代文化の中心であった地域では、四季の区別が明瞭で、規則的であり、その自然の循環する変化が、農耕社会の日常的な時間意識を決定したのであろうことは、想像に難くない。日本文化の時間の表象の第二の型は、始めなく終わりになく循環する時間である。循環するのは、ヘレニズムの場合のように天体の位置ではなく、季節であり、時間の円周は四季に分節化される。農耕は四季の循環に応じた種まきや草とりや収穫の労働なしには成り立たない。日本の農業の自然的条件は、四季の交替が明瞭でなく一年を通じて高温高湿の東南アジアの条件とは異なるのである。

III 九世紀以後平安朝の宮廷文化は、季節に敏感な、^⑥というよりも敏感であらざるをえなかった生産者＝農民の感受性を、全く非生産的な美的領域に移して、洗練した。『枕草子』は有名な「春はあけぼの」、「夏はよる」、「秋は夕暮」、「冬はつとめて」で始まる。同様に『古今和歌集』の最初の六巻は四季の歌である。他に恋歌五巻があり、春夏秋冬と恋をあわせて全二〇巻の半分を超える。抒情詩の主題が恋に集中するのは、なにも平安朝の日本に限ったことではない。(C) 四季に集中するのは、全く例外的であり、中国においてさえもこれほどではなかった。その傾向はすでに『万葉集』にもあらわれていて、それが『古今和歌集』において徹底したのである。(D) 四季の変化に対する関心は、平安朝以後さらに強まり、俳諧師たちにとつてはほとんど強迫観念となつて、周知のように、制度化された「季語」を生むに至った。「季語」は唐天竺^{からてんじく}になく、おそらく欧州諸国にもない。

(加藤周一「『日本文化における時間と空間』」)

* ながらへば…藤原清輔朝臣ふじわらのきよすけあそんの新古今和歌集所収の歌。

* 松（待つ）ときかは今かへりこむ…「立ちわかれいなほの山みなの峯におふる松ときかは今かへりこむ」（『古今和歌集』在原行平朝臣ありちのゆきひらあそん）。

◎問1 () A～Dに入ることばをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。（同じことばは二度使わない。）

ア しかし イ おそらく ウ すなわち エ しかも

問2 — 線部①について、「時間直線」と同じような意味で用いられている部分を、Ⅱの文中から一四字で抜き出して答えよ。

◎問3 — 線部②のように、一語に二つの意味を響かせる技法を何というか、答えよ。

問4 — 線部③とあるが、何によって定義されるのか。文中から二字で抜き出して答えよ。

問5 — 線部④とあるが、それはなぜか。答えとなる部分を文中から一三字で抜き出して答えよ。

◎問6 — 線部⑤を現代語訳せよ。

問7 — 線部⑥について、なぜ「敏感であらざるをえなかった」のか。その理由がわかる一文を抜き出し、最初の五字を答えよ。

◎問8 『枕草子』の作者を漢字で答えよ。

3

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

*ぎょうぶ 刑部卿きやうあつかね

刑部卿敦兼は、見めのよにくさげなる人なりけり。その北の方は、はなやかなる人なりけるが、五節*こせちを見はべりけるに、とりどりに、はなやかなる人々のあるを見るにつけても、まづわが男①のわろさ心憂く覚えけり。家に歸りて、すべて物をだにも言はず、目をも見合はせず、うちそばむきてあれば、しばしは、何事の出で来たるぞやと、心も得ず思ひゐたるに、次第に厭④ひまさりて、かたはらいたきほどなり。さきさきのやうに一所にもゐず、方かたを変へて住みはべりけり。ある日、刑部卿出仕して、夜に入りて歸りたりけるに、出で居ゐに火をだにもとさず、装束は脱ぎたれども、たたむ人もなかりけり。女房どもも、みな御前の目まびきに従ひて、さし出づる人もなかりければ、せんかたなくて、車寄せの妻戸つまどを押し開けて、ひとりながめゐたるに、更かたけ、夜静かにて、月の光、風の音、ものごと⑦に身にしみわたりて、人の恨めしさも、取り添へて覚えけるままに、心をすまして、筆*ひちりき策を取り出でて、時の音にとりすまして、

*
ませのうちなる白菊も

うつろふ見るこそあはれなれ

我らが通ひて見し人も

かくしつっこそかれにしか

と、くり返し歌ひけるを、北の方聞きて、心⑧はや直りにけり。それより殊ことに仲らひめでたくなりけるとかや。「Ⅰ」北の方の心なるべし。

(橘成季『古今著聞集』三一九)

*刑部卿…刑部省（訴訟や裁判などを司る役所）の長官。

*五節…十一月に行われた新嘗祭・大嘗祭の行事。五人の舞姫が舞う。

*出で居…母屋の外、廂ひだりの間に設けられた居間と客室を兼ねた部屋。

*車寄せの妻戸…車を寄せて乗り降りする入り口。妻戸の前にある廂の間の屋根を前に出し、その下に敷石しきいしを敷いた。

*筆策…竹管に、表七裏二の孔あながある、雅楽に用いる管楽器。

*ませ…ませ垣。竹や木で作った、低くて目の粗い垣根。

◎問1 — 線部①が指す人を文中から五字で抜き出して答えよ。

◎問2 — 線部②について、何についてこう表現しているのか。文中から二字で抜き出して答えよ。

問3 — 線部③・④の主語はだれか。組み合わせとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア ③刑部卿 ④北の方 イ ③北の方 ④女房ども ウ ③女房ども ④北の方 エ ③北の方 ④刑部卿

◎問4 — 線部⑤の意味として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア はたから見られて、恥ずかしいほどである。 イ はたから見られて、身も細るほどである。
ウ はたから見えて、気の毒なくらいである。 エ はたから見えて、ばかばかしいほどである。

◎問5 — 線部⑥の時の「刑部卿」の心情として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 孤独感と寂寥^{せきりょう} イ 絶望感と悲嘆 ウ 落胆と悔恨 エ 怒りと憤懣^{ふんまん}

問6 — 線部⑦を現代語訳せよ。

◎問7 文中の今様は、刑部卿のどのような心情を表したのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 白菊が枯れていくように、変わってしまった妻を哀れみ、同情している。
イ 妻の心変わりを白菊が枯れるのになぞらえ、仲が遠ざかったことを悲しんでいる。
ウ 散っていく白菊の美しさと、妻の幻想的な美を重ねて、はかなさを実感している。
エ 白菊が咲きそろっていく中で、妻が老い衰えていくのを悲しんでいる。

問8 — 線部⑧について、それまでの「心」は、どのようなものだったのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 夫をうとましく情けないと思っていた心 イ はなやかで派手なものを好んでいた心
ウ 夫と離婚しようと思っていた心 エ 表面的なものに気を奪われていた心

◎問9 「」に入ることはとして最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア ねじけがましき イ 幼かりつる ウ はなやかなる エ 優なる

◎問10 『古今著聞集』の文学史的な説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 平安末期の作り物語 イ 鎌食初期の擬古物語 ウ 鎌倉中期の説話集 エ 江戸初期の読本

4

次の各問いに答えよ。

A 次の俳句の()に入る擬音語・擬態語をア～オから選び、記号で答えよ。

- | | | |
|---|------------------------------|-----------|
| ① () 山吹散るか滝の音
<small>やまぶき</small> | 松尾芭蕉
<small>ばしょう</small> | ア ひよろひよろと |
| ② () なほ露けしや女郎花
<small>をみなへし</small> | ッ | イ たうたうと |
| ③ () 滝の落ちこむ茂りかな
<small>しげ</small> | 井上士朗
<small>しろう</small> | ウ まぎまぎと |
| ④ () 抜け初むる歯や秋の風
<small>そ</small> | 杉山杉風
<small>さんぶふう</small> | エ がつくりと |
| ⑤ () いますがごとし魂祭
<small>たままつり</small> | 北村季吟
<small>きぎん</small> | オ ほろほろと |

B 次の作家と関わりの深い文芸思潮・グループ名をア～オから、代表作をa～eから選び、それぞれ記号で答えよ。

- | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|---|
| ① 志賀直哉
<small>しがなおや</small> | ア 耽美派
<small>たんび</small> | a 破戒・夜明け前
<small>はかい</small> |
| ② 島崎藤村
<small>とうせん</small> | イ 自然主義 | b 伊豆の踊子・雪国
<small>いず おどりこ</small> |
| ③ 谷崎潤一郎
<small>たにざきじゅんいちろう</small> | ウ 新感覚派 | c 春琴抄・細雪
<small>しゅんきんしょう ささめゆき</small> |
| ④ 芥川龍之介
<small>あくたがわりのすけ</small> | エ 「白樺」派
<small>しらば</small> | d 羅生門・歯車
<small>らしやもん</small> |
| ⑤ 川端康成
<small>かわばたやすなり</small> | オ 「新思潮」派 | e 城の崎にて・暗夜行路
<small>き ささき</small> |

C 次の四字熟語の意味をア～オから選び記号で答えよ。

- | | |
|--------|--------------------|
| ① 異口同音 | ア 気持ちをしつかり変える。 |
| ② 厚顔無恥 | イ 心を奪われる。 |
| ③ 心機一転 | ウ あつかましいこと。 |
| ④ 無我夢中 | エ (自然の) 災害や不思議な現象。 |
| ⑤ 天変地異 | オ 大勢の人が同じ意見を言う。 |

D 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直せ。

- | | | | | |
|--------------|------------|-------------|-------------|------------|
| ① 乖離 | ② 真摯 | ③ 翻弄 | ④ 破綻 | ⑤ 曖昧 |
| ⑥ 内部にシントウする。 | ⑦ リンカクを描く。 | ⑧ ヒンパンに訪れる。 | ⑨ 伝染病のバイカイ。 | ⑩ 自意識カジョウ。 |